

福祉と医療の学習会記録

2006年3月11日(土) 10:00~
東金市ふれあいセンター 視聴覚室
男性3名 女性4名

自己紹介

藤本(会の理事長) 太齋(鶉嶺の家の代表) 山中(障がいの子どもの持つ親) 石井(障がいの子どもの持つ親) 伊藤(さんぶ福祉ネットからの紹介) 新ご夫婦(妻:自分が体が弱いので、関心が高い、夫:今は元気で、何か役立つことがあればとおもっています。)

今回の資料

前回の議事録

3月25日の地域医療センターに関する対話集会・チラシ

前回の振り返りと今回取り組むことの説明

(藤本より)

前回の学習会は、長野県佐久郡南相木村で地域医療に取り組む色平哲郎さんのビデオ鑑賞をした後、「地域住民として、医療に関する不安や要望を出してみよう」ということで、参加者全員でワークショップを行った。それを、時間のかかるもの、すぐできるもの、専門機関が取り組むべきこと、住民でできること、という形で整理をした。(詳細は、別添のとおり)

このことを元に、今日の学習会では、住民の方がほしい医療情報とはどんなものか?を出し合って「医療のガイドブックづくり」を行う。

山武地域の医療ガイドブック作成にあたっての主な話し合いの状況

ガイドブックの比較

藤本:いままで、山武郡内の医療情報にでているものを紹介

山中:郵便局でもらったものを持参(東金市、大網白里町版)

藤本:このガイドブックは、県の医師会で作ったもの。(山武郡市版)

山中:私のもってきたのは、病院・医院周辺の地図が詳しく出ている

石井:細かい行き方がわかる。

移送問題

新:昨年(2005)の4月の道路交通法の改正により、有償移送ができないことになった。でも、この地域は、移動手段が充実していないので、このことは問題である。

藤本:話しがそれたついでに、社協の福祉だよりに新たな仕組みがのっている。

社協の移送サービスについて紹介。

山中:うちのおばあちゃんは、以前は通院に1回400円の負担だったが、介護タクシーを利用することになった。運賃が2,700円かかる。それに医療費を加えると大変だと言っている。

藤本:病院などに行くときにも、アクセスの問題はある。本当は、ガイドブックつくるときに、病院までのアクセス情報を載せることも必要かもしれない。

ボランティアする人、利用する人

新:うちの近所で、移送のボランティアをやっている人は、時々怒っている。なぜなら、送迎を希望する人の頼み方やサービスの使い方に問題がある。私は、よく「やめれば」という。

山中:やはり専門のコーディネーターが必要だと思う。

新:だから、一番よいのは、ニーズと協力できる人をしっかりとマッチングできる機関が必要。

ガイドブックに話を戻して

新:このガイドブックにある情報の下に、具体的な交通アクセスをのせたらどうかと思う。

交通アクセスの具体的な掲載の仕方について議論。

藤本:ホワイトボードに意見を整理する。

(別記)

山中：細かい情報については、このガイドブックをつくる際にお金を出してくれたところだけにするというのはどうか。

藤本：育てる会としては、お金がどうこうというよりも、まずは最低限の情報をそろえるようにすることが大事だと思う。また、今回のガイドブックの項目は、単に状況を知ることだけでなく、地域住民がこういう医療が必要なんだというメッセージになると思う。

(移送サービスに関する情報で議論)

山中：ただ、介護保険制度にのれないお年寄りの人たちのサポートが必要。自分ではなかなか電話ができない人もいることを考えてほしい。

新：病院や診療所の環境に問題があると思う。

(クローバーに診療所の紹介)

(各医療機関の紹介スペースは同じサイズとし、ないものはないことがわかる工夫。)

新：まずは、郵送して、集まらないところは、訪問して説明して回答してもらおう。集まらないから、掲載しないというわけには行かない。

藤本：情報の範囲はどうするか？病院だけにするか？

山中：あんま・針灸なども含めて考えてみてもよいのではないか。

(ガイドブックの出し方、制作の費用などについて議論)

太齋：まずは、パンフレットのような簡単なものを出した方がよいような気がする。その後に、詳しい情報がのったガイドブックをつくったほうがよいのではないか。経費的な問題もあるので。

藤本：ひとつの考え方としてはある。

ガイドブックに関する協議の後・・・

新：伊藤さんは、今日参加してどうでしたか？

伊藤：今日の会は、先に理想の話があって、後半は、現実の話があった。最初に現実の話があった方がわかりやすかったと思います。で、私もガンを東金病院で宣告されたが、東金病院では、手術は受けずほかで受けた。

まずは、わたしからすれば、現実の問題が先である。

シンポジウムにも参加したので、なんとなくはわかるけど・・・住民にとっては、目先の医者不足をなんとかしないとイケないのではないかと(中略-シンポジウムの中身-)

私は、先日 病院ってどんなところか見に行ってみたら、介護関係？の施設がたくさんあって、なんとなく、受けた印象は、「医者」というよりも、どちらかというところ「経営者」だということ。なんか、違うような気がする。

(藤本から、伊藤さんへ地域医療を育てる会の概要や山武地域の現状・実態、学習会の流れについて説明。)

医療ガイドブックの項目・全体の概要(案) ホワイトボード整理

【各医療機関】

飲食店、医療機関名、電話、(FAX)、車椅子対応有無、往診、休診日、所在地、診療時間、診療科目、移送サービスの有無・範囲、近くのバス停、知的障害者の受診可、身体障害者の受診可、託児スペース、予約有無、セールスポイント、障害者受診手帳の有無、

【ガイドブック全体】

地図、バス停、診療科目ごとの目次・一覧、コラム「こういう診療所、病院があったらいいな～」

今後の予定

学習会の予定 4月15日13:30~
会場については、後日連絡。

懇談会の企画 ???

この日、午後から城西国際大学の袁先生と懇談(藤本)

冊数にもよるが、コストはほとんどかからずに印刷できる方法もあるそうです。